

環境保全は企業の義務

北京師範大学学生代表

見学日時：2016年11月30日（水）09:15-11:30

見学場所：パナソニックエコテクノロジーセンター

見学概要

この日の午前、私たちはパナソニックエコテクノロジーセンターを訪れ、熱烈な歓迎を受けた。同センターのホールでは、回収した素材を使った多くの製品を目にすることができた。



そして、同センターのスタッフからパナソニックの理念「商品から商品へ」、「資源循環型モノづくりで、大切な資源を未来へ」についての紹介を受けた。



その後、私たちはパナソニックエコテクノロジーセンターの工場を見学し、紹介ビデオを観賞し、解説に耳を傾けた。全体を通じた見学において、同社は私たちが理解しやすいように解説と字幕をすべて中国語で作成しており、これには私たちもとても感激した。

最後に質疑応答を行ったが、皆はとても積極的で、中国人大学生の前向きな姿勢を示していた。



知っていますか？

今回の訪問中、私たちは同センターに見学に来ていた数名のお年寄りを見かけた。パナソニックは自らの環境保全やリサイクルなどの理念を普及するため、関連業界の企業や一般向けに同センターを開放している。同センターの展示用廊下には、現地の小学生による見学後の感想文や絵が壁一面に貼られている。このようにパナソニックは、営利企業の身分を超越し、日本社会の一部分として大衆向けに環境保全や節約そして効率的利用などの理念を積極的に広め、エコの意識を植え付けるための努力を行っている。

感想

今回の訪日前から、私たちはパナソニックという企業についてある程度の知識は持っていた。というのも、多くの家庭ではパナソニックブランドの家電製品が使われているからである。そして日本でより深く同社について知り、私たちは初めてパナソニックの成功はそのハイテク製品のみならず、同社に根付いた環境保全理念が理由となっていることに気が付いた。「商品から商品へ」、「資源循環型モノづくりで、大切な資源を未来へ」などの理念の下、パナソニックは使用済家電などの商品から再利用可能な金属やプラスチックなどの資源を取り出し、再加工処理により新たな製品を生み出すことで、資源のリサイクルを実現している。創始者の松下幸之助の時代から、パナソニックはこの信念を貫いている。

こうした理念の普及のため、パナソニックは社会に向けた交流や見学の間を構築し、現地の学校やお年寄りまた企業などによる見学を積極的に受け入れている。

私たちの社会により良い生活環境を構築することは、私たち各個人そして各組織の責任である。利益獲得は企業の本質であるが、社会の一部分として、企業には社会的責任を担う義務がある。こうした責任には浅い意味での粗悪品を作らない、廃棄物や廃水を処理してから排出するなどの他に、深い意味での製品の利用率を高め、社会へ正しい生活理念などを普及することも含まれている。製品一つひとつが快適かつ安心して使え、私たちが工業化やハイテクを享受すると同時に、自然の豊かさを享受できるようにする必要がある。

パナソニックの経営理念からは、私たちは多くを学ぶことができる。真に環境に優しく、エコで高度に発展した現代社会を構築するには、まず市民全体がこうした意識を持ち、さらに正しい方向性による指導や制度の制約の下、確実に目標に進んでいく必要がある。社会における変化や転換の道は長いものであり、時には何世代もの人々が努力を続ける必要があるかもしれない。しかし中国は一步ずつ浮き足立つことなく、確実に進むことでのみより良く変わることができるのである。